



三井新成議員

少子化対策と手厚い出産支援を

出生数の大きな減少はなく、今後も環境を整備

質問：町内の出生率の低さをどう考えているか、取り組みの効果は。

町長：合計特殊出生率は1.6517人と、全国平均よりも高く、近年横ばい状態が続いている。減少していないのはこれまでの対策の効果が出ていると考える。これまで結婚相談室を作り、婚活にも早く取り組みんできた。また未満児保育、病児保育、学童クラブの充実を図り、子どもを育てる環境づくりに力を注いできた。結婚するカップルの数は年間50

60組あり、一カプルで二人以上の出産で120人以上の人口増となり、年間の人口減少数を上回る事が期待できる。

質問：子育て支援として、3子・4子出産の家庭に長期的に支援する考えは。

町長：3子・4子への援助やお祝い金を支給している市町村はあると承知はしているが、一般的でない。町としては、一時的な支援より継続的に子育てをバックアップすることにより、安心して夫婦で仕事ができることを第一としている。出生率は上昇していないが、現状を維持しているところを評価してほしい。

質問：子どもをつくり育てることは未来への投資と考えるか。

町長：他市町村との違いとして、子どもをたくさん産んで育てても学校を出て都会へ行き就職してしまう。富士見町へ若

者が定着しないことが大きな問題である。今年学校を卒業して就職した方は150人いたが、富士見に残っている若者は50人程度である。どんなにお金を掛けても優秀になればなるほど上昇志向が強くなり、生まれた地に戻らない現象が起きている。町長二期目の目標として、若者が富士見町に定着して子どもを育てやすい政策を進めている。具体的には新規就農パッケージとテレワークタウン構想であり、富士見の良さを十分に認識し、ここに定着し子育てをしていただきたい。そして成長の後に町外へ流出させない方策を今後の課題として最大限力を尽くしたい。

□その他の質問

*町内犯罪抑止策について

*迅速な災害対応について



小林市子議員

土地利用や地域づくりをどの様に考えるのか

耕作放棄地を増やさず、特産物を特化した農業で努力して行く

質問：町は「散在的な土地利用から、均衡のとれた土地利用を目指す」と計画を示しているが、将来的に有効活用できる用途地域として、通勤・通学し易い駅周辺の定住促進を図ったかどうか。地域を活かした整備計画が課題ではないか。

町長：耕作放棄地をこれ以上増やさないことを重視している。新規就農では50人ほどが就農し、特産物農業にも関わって

町では決められない。

■高齢化に向けた住民サービスについて

質問：旧有線電話番号簿は、今でも使われているが、最新版を、作成したかどうか。

町長：町の管理として提供していたが、電話帳はNTTで無償配布している。コスト的にも合わず、町が新規に作成することは考えていない。

質問：さらに使いやすく、暮らしの相談窓口等の機能を持たせた電話帳の発行は、高齢化に向けた住民サービスではないか。

町長：町が新たに調査し、電話帳を新規に編集する負担は大き過ぎる。高齢者向け相談窓口対応については地域包括支援センターで作成しており、福祉サービスの一環としての役割を担っている。